

はじめに

みなさん、はじめて自分が担任する学級の子どもたちを目の前にした日のことを覚えていますか。何を話せばよいのだろう。自分の言うことを分かってくれるのだろうか。期待と不安で胸がいっぱいだったことでしょう。

教員をしていれば、学校や学級ではさまざまな出来事が起こります。子どもたちと楽しく喜び合うこともあれば、自分の思い通りにいかないことがあって悩んだり、自信を失ったりすることもあるでしょう。時には、自分は教師には向いていないのではないかと考えることもあるかもしれません。みなさんの学校の多くの先輩方も、一度はこのようなことを考えたことでしょう。誰もがこのような経験を重ねて、教師として成長していきます。子どもたちと一緒に過ごした時間は、教師にとって、かけがえのない財産なのです。

本県では、この先10年で教員の年齢構成が大きく変わります。これまで、鳥取県の教育の中心を担っていた年代の退職と同時に、多くの若手教員が教壇に立つこととなります。若手教員の増加等に伴い、これまで以上に教師の学級経営能力を高めていくことが求められています。また、「とっとりの授業改革【10の視点】」の⑩にもあるように、鳥取県の子どもたちが、さらに伸びていくためには、「落ち着いたのびのびと学べる環境づくり（学びの集団・人間関係づくり）」が基盤となります。さらに、いじめを生まない学級づくりやいじめの解消、不登校の未然防止のためにも、学級づくりや人間関係づくりに対する取組が大切です。

そこで、平成27年度に「学級づくり・人間関係づくり」推進事業を実施した6中学校区の取組等を中心にして「学級づくり・人間関係づくり」に関する理論や取組例を具体的に取り上げたハンドブックを作成しました。本書には各中学校区の特徴的な様々な取組を紹介しております。しかし、本書に掲載している実践はほんの一例です。学級づくり・人間関係づくりには、これをしたら必ずうまくいくというような特効薬はありません。まずは、学校で困ったことや思い通りにいかないことがあれば、同じ学校の先輩方に相談してみてください。きっとよいアドバイスをいただけたらと思います。

これから、鳥取県の学校で子どもたちとかわかっていく中で、思ったとおりにいかないことや困ったことが起こったとき、本書を活用していただき、よりよい学級づくり・人間関係づくりのための参考にしていただければと願います。

